

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800069		
法人名	城陽福祉会		
事業所名	グループホームひだまり 鍛冶塚		
所在地	京都府城陽市平川鍛冶塚64		
自己評価作成日	平成28年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&jigyouCd=2692800069-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成28年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活介護事業所として「利用者」と「職員」が「共に暮らす」事が出来ています。 ・季節ごとに「畑」に苗や種をまき、共に水やり、草抜きのお世話をし、収穫時には、共に味わい喜びを共有しています。 ・毎日、9:30～は施設や居室の掃除を、共に行き、ラジオ体操をして、10時のお茶の時間をお話しながら過ごしています。また、食卓の花瓶の水を入れ替え、庭に咲いた花を切って入れ替えをします。 ・季節ごとに外出と外食を、ご家族とともに出かけ楽しめます。 ・地域のサロンや地藏盆・神輿巡航などの行事も、職員と地域の方々と一緒に参加します。 ・毎日のお食事は、皆で下ごしらえ～配膳まで役割分担して作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

城陽市の静かな住宅街にある開設満5年のグループホームである。果樹園、畑、藤棚のある庭園が平屋建ての和風住宅の三方を囲んでいる。屋内も1つの廊下に3室のみという落ち着いた設計、1ユニット9人の共同生活というグループホームの原点がある。「今日は楽しかった」という暮らしを実現しようと毎日花を生けたり、習字等好きなことをする他、京都へ五里、奈良へ五里という「五里五里の里」へのドライブ、有名な抹茶スイーツを食べに宇治へ、桃山城の帰りに「鳥せい」でお弁当、八幡のバーベキュー店で昼食等々、外出も生活を彩っている。さらに利用者には一人ひとり役割をもってもらい、「必要とされている」という生きがい感を支援している。家族との関係も良好で行事や外出に参加する家族も多い。前回の評価以後地域との連携交流が大きく進んだこと、ターミナルケアを実施したことが改善点として特筆される。ホーム内にはゆったりした時間が流れ、利用者は自分のペースで暮らし、豊かな生活文化を享受している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて唱和を実施している。	法人の理念を踏まえて職員が話し合い、グループホームの理念を「愛する、理解する、頑張れる、尊ぶ、嬉しい⇒ありがとう」と定め、玄関に掲示し、利用者・家族、運営推進会議の委員に周知を図っている。「共同生活」というグループホームの意義を深く捉え、日常生活での作業をすべて利用者と共に行っている。利用者一人ひとりに役割があり、そのことが生きがいになっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ケアプランの日課にて、散歩の方がおられる。 ⇒ 長屋にすわまれる住民との挨拶が出来る。	利用者は近くの住民と散歩やゴミ出しの際に交流している。自治会に加入し、町内のクリーン活動、近くの小学校の清掃活動等に参加している。利用者は自治会の地蔵盆に参加しご詠歌を唄ったり、七夕の流しそうめんを楽しんだりしている。ボランティアグループが公民館で開催する「ふれあいサロン」に参加している。見学に来た民生委員にグループホームや介護保険の説明をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事参加時に、質問を受ける機会がある。 12/18 民生委員の勉強会で、施設見学・制度の説明会を実施			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの地域参加への意義について、国の福祉施策について、自治会・住民代表に説明・協議をした	家族、自治会長、組長、民生委員、老人会会長、、市高齢介護課、在宅介護支援センターが委員となり、隣の併設事業所と共に隔月に開催し、記録を残している。事業所からの報告の後、様々な視点から活発に話し合いが行われ、自治会やボランティア団体との協力関係が作られている。「AEDを地域でも使わせてほしい」「カフェをしてはどうか」等、意見を踏まえて検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会議への参加	市とは相談、報告等連携している。市の介護相談員を受け入れており、毎月来訪し、利用者の話を聞いてくれる。市の地域密着型事業所連絡会に参加し、情報交換や事例検討をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ている	「身体拘束をしないケア」を実施しており、拘束の事例はない。グループホームでの研修を実施し、職員は身体拘束について認識している。スピーチロックについては常に話しあい、注意している。玄関ドア、非常口、庭へのドア等すべて施錠せず、敷地内は自由に行動できる。門扉を中から施錠しているものの、利用者の動きを察知すれば開放するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来ている 法人職員会議にて勉強会も実施		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ている 法人の管理者閲覧資料にて勉強している ※JSWEEKLY		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・介護相談員の受け入れ実施 ・地域推進会議にて家族様発言時間の確保実施 ・家族利用者交流会の実施	家族は面会や受診同行で毎月来訪している。カラムフルで写真が多い広報誌を家族に配布している。夏祭りに参加したり、花見やドライブ等の外出に参加する人も多い。家族交流会を年2回開催し、焼き肉昼食や徳島の郷土料理を楽しみ、家族、利用者、職員の相互交流が進んでおり、意見が言い易い関係になっている。「地域との交流が進んでいるのは嬉しい」等の意見が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来ている	職員会議を毎月開催し、ケース、運営、研修をしている。職員からの意見により、居間兼食堂のレイアウトや業務マニュアル等の変更をしている。法人の全体会議では外部研修の伝達研修等が実施されている。グループホームの研修は今年度は認知症をテーマに実施している。外部研修や資格取得には法人から援助がある。職員の個々の目標は管理者との面接で年2回点検している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与・昇給の度に面談・面談シート作成実施		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ている ⇒今期だけでも、5名外部研修に行っている（管理者含む） ⇒地域の医師会の講演会にも有志でまともって聞きに行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城陽市の事業所連絡会議に参加		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族の行事参加率90%の確率でご参加 いただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一時帰宅や、地域行事への参加、オープン な面会など実施出来ている。	家族の協力を得て、利用者の希望により以前住 んでいた家に同行している。利用者は好きな庭い じりをしている。仏壇を拝みたいと帰宅する利用者 もいる。寺で行われる法要に利用者を連れて行く 家族もいる。徳島県出身の利用者の家族が総出 で協力し、田楽、そば米雑炊、ちくわ等徳島の郷 土料理を作ってくれ、利用者、職員が楽しいひと時 を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	出来ている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ケアプラン更新時には必ず「本人の意向」の 部分で聞き取りを行っている。	利用者やサービス担当者会議の席上で家族に じっくり話を聞き、思いを把握するようにしている。 京都や城陽、徳島等の出身地、両親が早逝した 子ども時代や可愛いがられて育った人、夫は警察 官、若い時は学校の先生だった、子どもは男の子 3人、1人娘等々、生活歴を記録している。歌、書 道、花を育てる等、利用者の好きなことを把握して いる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のモニタリングを基に管理者が添削・問題提起、カンファレンスにて計画作成がアプローチについて話し合っている	利用者担当制にしており、ケアマネジャーと担当職員が話し合い、利用者や家族の希望を踏まえて介護計画を作成している。「味噌汁を注ぐ」「花を育てる」「散歩」等、身体介護のみならず、役割や楽しみの項目を入れ、生きがいとなるような介護計画にしている。介護記録は利用者の発言や表情等の記載がほとんどない。毎月のカンファレンスで利用者3人ずつについて話し合っており、ADL、ニーズ、訴え等を勘案し、介護計画の検討をしている。	介護記録は介護計画に沿って介護を実施したときの利用者の発言や表情、「今日はやめとく」等、拒否があったときはその要因を書き、介護計画見直しの根拠となるようにすることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録支援ソフトを使い、こまめな申し送りにて情報共有実施		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナル実施等、家族の要望に合わせてサービスの内容を変化させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪・買い物定期的に地域に出かけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている	利用者の従来のかかりつけ医に家族同行で受診しており、グループホームで把握している情報は文書にして家族や医師に提供している。歯科は訪問歯科医を利用している。認知症の受診をしている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置していない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている ⇒入居者の募集も含め、地域連携室への定期連絡を実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプラン更新時に、毎回、家族の意向を確認している。	利用者の重度化や終末期に関して、グループホームの方針を文書化し、利用者や家族に説明し、同意書をとっている。家族がサービス担当者会議に参加した際に利用者や家族の意向を聴取している。昨年医師の診断で終末期を迎えた利用者があり、利用者・家族の希望により看取りの介護計画を立て、家族の協力を得ながら、ターミナルケアに取り組み、最期を看送っている。みんなと一緒にいたいという利用者の希望で、最期まで居間で過ごすことが多く、家族からは感謝の言葉ももらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて救急救命講習を定期的実施 ⇒参加させている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を実施 地域の防災訓練にも参加	地震や火災について毎月避難訓練をしており、消防署の協力を得ている。AEDは隣の併設事業所にあり、備蓄とハザードマップを備えている。地域の防災訓練にも参加している。災害緊急時には法人として相互の協力体制を考えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇チェック表を毎日つけて自己の振り返りをしている。 ⇒チェックの内容は時々の課題に合わせて一定期間目標を設定している	プライバシーや接遇については普段から注意し、話し合っている。接遇チェック表を作成し、職員が自己点検している。接遇については単に利用者への対応に限らず、ホームにくるすべての人への対応と捉え、毎日庭の花を生ける取組をしている。意思表示の困難な利用者にも、その人の癖や表情をよく把握することにより、自己決定を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	モニタリングの欄に「本人の訴え」と言う欄を設け、本人から訴えがあった時に実現できる(気づき)の機会を設けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎月のカンファレンスにて都度話し合いをしている。 3か月に一回のプラン更新時に単に更新しない様見直しをしている。 ⇒担当者を設け担当者と計画作成で話し合いをさせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人に役割がほぼ決まっている ※決まってはいるが自由に変更可	法人の管理栄養士が立てた献立にしたがって食材が配達され、利用者とともに手作りしている。和食中心で野菜が多く使われ、カロリー値と栄養バランスの点検をしている。調理、盛り付けには利用者が役割をもって参加している。食卓に花を飾り、会話しながら、職員も食事を楽しんでいる。近くのすし店で握りずしを買ってきたり、焼き肉や畑で収穫したじゃがいもの1品もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日中は、本人の自立支援を実施 就寝時には必ずフォローしている ※要介護者には毎食後実施		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	担当者を中心にカンファレンスですり合わせ調整を実施している	3分の2くらいの利用者は排泄の自立ができており、尿意によってトイレに行っている。他の人は排泄パターンの把握により、声掛け誘導している。排便については利用者の観察と腹部触診等により、水分、冷たい牛乳、ヨーグルト等の提供、運動等により、薬に頼らない支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便カウントを的確にとり、声掛け、誘導、状況に応じて、下剤の服用を実施		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向に沿って声掛けを実施	おおむね午後の時間帯に1日4、5人の利用者に声をかけ、入浴を支援している。利用者は毎週3回の入浴を楽しんでいる。湯温は利用者の希望に沿っており、一番風呂が好きな人、一番は嫌な人等があり、希望を聞いている。自分用のシャブーを使っている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に沿って声掛けを実施		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている ⇒特に担当者には薬購入時には必ず薬内容を確認し印鑑を押させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプラン第2表作成の際に十分考察している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の生活の関わりから注意深く耳を傾けモニタリング・サービス担当者会議・カンファレンスの機会を通して検討している	ふだん利用者は近くを散歩している。久世神社への初詣、木津川堤防での花見、醍醐寺や桃山城での紅葉狩り等、季節の外出をしている。宇治や八幡、五里五里の里等、ドライブも多い。ゴミだしの役割を担っている利用者は収集日ごとに近くの集積所にゴミを出しに行き、近くの住民たちと話している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・習字、季節のちぎり絵、お出かけの写真の掲載など ・毎日の日課として、利用者と一緒に庭の花を一輪挿しにいけている	玄関口に傘立てとベンチを置き、来客を柔らかく、迎える雰囲気がある。ドアを開けた正面に掛け軸と生花を飾っている。居間兼食堂から3方に廊下が延び居室が並び、プライバシーを保っている。大きなガラス戸の先にウッドデッキから庭を見て、季節や天候を知る。壁には利用者の書初め、季節の貼り絵、おしゃれな掛け時計等を掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に合わせて模様替えを実施。 ⇒空間を考える思考を身に付ける様はなしあった		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている	居室は洋間にクローゼットと洗面台がついている。窓が大きく明るい。利用者はベッド、筆筒、整理筆筒、仏壇、テレビ、木製の床几、椅子等、愛用のものを持ち込んでいる。入口に掛けられたのれん、ベッドの上のふとんや毛布、観葉植物、息子が持ってきたという一輪挿しの花、棚に飾った亡夫や家族の写真、かわいいマスコット等々、その人らしい部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている 毎月2回、施設の安全チェックを実施している		